

# かゆい戸所に手がとどく // 保育現場の超具体的安全戦略!

## 第3号

# 「はさむ」を予防する

園のあちこちにある「はさむ」、見つけましたか? 今月は予防法です。「予防=見守る」ではありません。忙しくて「目が離れた」時にこそ事故は起こるから。道具や掲示を活用し、安全な環境を作っていきましょう!

所 真里子

日本子ども学会常任理事、ISOガイド50 (子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。



### 狭いすき間の予防策

#### わかりやすく表記+声かけ

折りたたみ式4人乗りバギーの支柱部の指はさみ事故(前号)。バギーが開ききっていないと、すき間ができます。このような場合は、



- 「出発前、開ききっているか確認」と記した紙をラミネートしてバギーにぶら下げておく。

- 出発前に「支柱部確認しました」「確認ありがとうございます」と保育者で声をかけあう。

- 開ききった状態の写真も添えられていると、さらにわかりやすいですね。



### 広いすき間の予防策

#### すき間を測る→ふさぐ。ベルトで固定。対策できないなら使わない

身のまわりには、体は通り抜けて頭がひっかかるすき間がたくさんあります(前号)。このような危険なすき間を点検するための決まり(JIS規格)も今後できそうです。まずは…



- 体が通り抜けられないよう、板などですき間をふさぎましょう。目安は、柵の基準となっている11センチ以下です(設置業者とも相談を)。



- 子ども用椅子に固定ベルトがついている場合、使用中はベルト着用。



- 固定ベルトがない場合、すき間の大きさを測り、座る児の胴体より大きく頭より小さいのであれば使わないことをお勧め。

### 動くすき間の予防策

#### 引き戸の扉の予防策

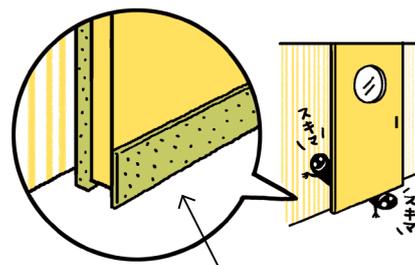
開け閉めする部分は力がかかるため、切断や骨折が起きやすい場所です。

- 油圧ダンパー等を後付けすれば、扉の開閉スピードは遅くできます。
- 引き戸の、おとなの目の高さ「向こう側に子どもがいるかも! 確認しながらゆっくり開けましょう」と大きく貼り紙を。
- 玩具の扉などは、巻き込まない形につけ変える、扉をはずしてしまう等。開け閉めが大好きな時期は、はさまずに開け閉めを繰り返せる道具を工夫しましょう。

のぞき窓部分はへこんでいる場合が多く、手指や腕が引き込まれやすくなります。子どもも手を置いてのぞきこみます。→ふちの内側にすきまテープのようなクッション材を貼る。



引き戸と戸袋(または壁)の間が大きく開いている場合、戸袋(壁)の内側にクッション材が硬いゴムシートを貼り、すき間にはさみこまれにくくすることもできます。



吊り戸等で床と扉の間のすき間が大きい場合は、硬いゴムシートを垂らすように貼ると、手足の指がはさまれにくくなります。